

チャレンジ！野菜づくり



一年の計は元旦にありといいますが、とかくマンネリになりやすい自家菜園を活性化するために、今年お薦めしたい野菜の種類や品種、育て方などについて考えてみましょう。

早春から夏にかけて

一番育てやすく、冬から春まで長い間取れるのはナバナです。改良品種の「花飾り」などは耐寒性が強く花ぞろいも良く美味です。

ピーマンは苦味や臭いが少なくキユートな小型で、子どもにも好まれる新品种「ピー太郎」、赤・黄・だいたい色をそろえ、平型の「フルーツパプリカ」などで新しい魅力が加わりました。

大型トマトを立派に作り上げるのは大変難しいですが、耐病性で育てやすくなった「ホーム桃太郎」「桃太郎ホープ」「麗容」などが味も優れています。

育てやすくよく取れる5月までのつる性インゲンはずび取り組んでください。品種は古くから味に定評のあるインゲン「ケンタッキーワンダー」などです。しっかりと交差

させた支柱を立て、つるが伸び始めたら遅れずに支柱へ誘引し、半月に1回、少量の追肥をするだけで、朝夕2回、2カ月ぐらいい収穫し続けられ、新鮮な格別な味を楽しむことができます。

夏から秋にかけて

夏の青物としては、強健で連作にも耐え作りやすい小松菜が一番のお薦めです。身近な菜園なら、抜き取り収穫だけでなく、株をそのまま残して

下の方の葉から1〜2枚ずつ葉かき収穫すれば、数カ月以上も長い間収穫し続けることができます。「きよすみ」は強健で夏に強く美味。

9月まきの小カブは、色白で色つやが良く肉質が



緻密で味の良い「たかね」、大きくなっても入りせず味の強い強健な「耐病ひかり」、上が赤紫色、下が白色でサラダや酢漬けに最適な「あやめ雪」などがお薦めです。ニンジンには芯までオレンジ色になり甘さと風味に優れ、煮物やサラダにして彩りの良い「ベーターリッチ」が魅力的です。

ネギは味を重視した品種を選び、自家菜園ならではの食味を楽しみたいものです。「九条太」を筆頭とし、「下仁田」など全国的に在来系の味の良い品種があり、それらを考え選ぶことが大切です。

肥料・農薬のご紹介

色んな効果を持ち合わせた

石灰窒素

石灰窒素は、窒素として硫安20kg分、アルカリ分として苦土石灰20kg分相当あります。緩効性窒素肥料と農薬、腐熟促進等の効果をあわせ



持ち、非常に便利な資材です。

土壌にまくと、有効成分であるカルシウムシアナミドが土壌中の水分と反応して加水分解を受けてシアナミドとなり、農薬効果を発揮します。その後、肥料成分等に変わるので、農薬成分は残留しません。

ひとつで二役の非常に便利な資材ですが、必ず適用作物・適用内容等を確認してから使用してください。※シアナミドおよびアルカリ分はかぶれの原因や、酒類への耐性が弱くなるため、マスク・手袋等で防護してください。

■石灰窒素の3つの効果

- ①肥料効果
窒素が長く効く・カルシウム補給
- ②農薬効果
殺虫、殺菌、除草
- ③土づくり効果
有機物の腐熟促進・酸性土壌の矯正

使用方法等でご不明な点は、各営農センターまでお気軽にお問い合わせください。